



コシヒカリの熟期だけを中生にした水稻新品種

関東HD2号

New Rice Cultivar “Kanto HD2”, Isogenic Line of Koshihikari with Middle Maturity

作物研究所は、DNAマーカー選抜技術を使って様々な成熟期のコシヒカリの同質遺伝子系統の開発を進めています。その第2号として、中生熟期のコシヒカリ同質遺伝子系統「関東HD2号」を開発しました。コシヒカリ型の中生品種として普及が期待されます。

関東HD2号の育成経過

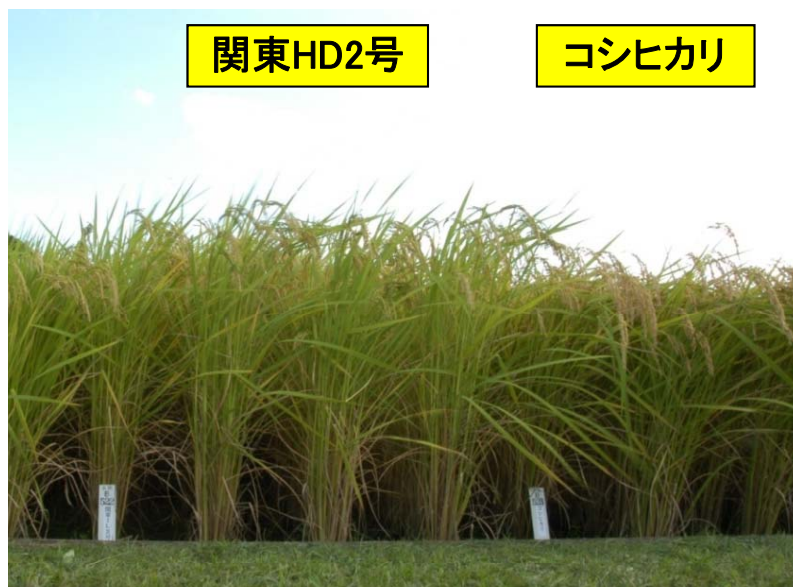
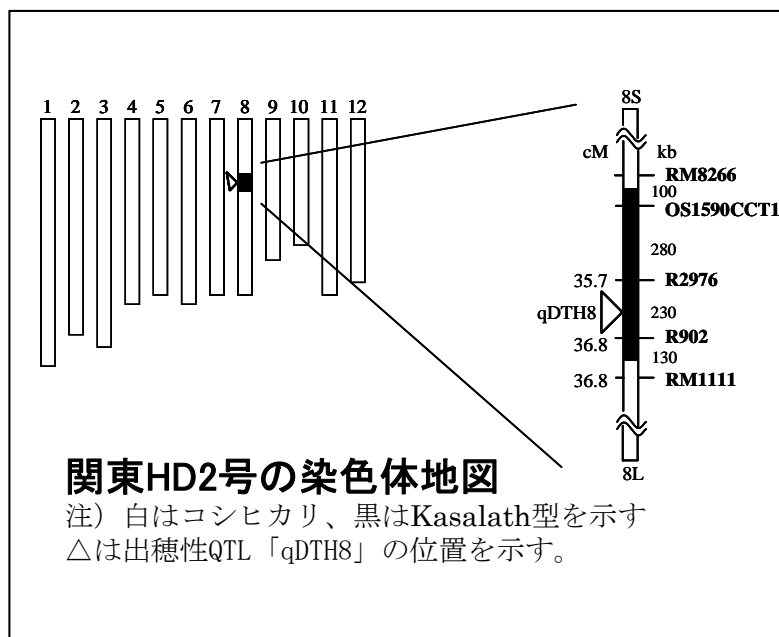
インド型品種「Kasalath」由来の出穂を遅らせる出穂性QTL「qDTH8」(Hd5)を戻し交配とDNAマーカー選抜で「コシヒカリ」に取り入れました。

関東HD2号の特性

- 関東では「コシヒカリ」より10日遅い“中生の晩”熟期です。
- 草姿や耐冷性、いもち病抵抗性などの特性は「コシヒカリ」とほとんど同等です。
- 炊飯米の食味は「コシヒカリ」並に優れます。

DNAマーカー選抜は染色体上の特定のDNA塩基配列を目印(マーカー)にして育種材料の選抜を進める技術です。

同質遺伝子系統とは、目的の性質以外は親品種と遺伝的にほとんど同じ特性の品種です。



関東HD2号とコシヒカリ (作物研)

関東HD2号は、(独)農業生物資源研究所と共同で育成した品種です。

農研機構 作物研究所 稲研究領域

問い合わせ先:企画管理室 tel:029-838-8260

E-mail: www-nics@naro.affrc.go.jp http://www.naro.affrc.go.jp/nics/index.html

2007-13